

図書室での不思議な出会い

土肥 壮哉

2011 年 7 月、佐倉城址公園。とても暑く、カラカラの地面にほとんどのきのこはみつかりませんでした。「これに懲りずにまた来てください」、と吹春先生から最後に言われたと思いますが、その後 3 年以上、観察会にはほとんど毎回参加しています。

千葉菌と出会った当時大学 4 年だった私も大学を卒業し、大学院を修了し、新社会人となりまもなく 1 年です。今回、事務局から自己紹介の機会をいただきましたので、簡単にはありますが自己紹介ときのことの出会いを書きたいと思います。

私は新潟市の出身で、大学進学のため千葉に来ました。大学・大学院を千葉市で過ごし（大学ではきのこではなく、有機化学をやっていました）、去年の四月に千葉市からいわ

き市の南端に引っ越し、化学メーカーに勤めています。

よく、なぜ大学できのこを専攻しなかったのか聞かれます。当時、きのこ以外の農学にあまり興味がなかったことと、きのこは趣味でも続けられそうだったため化学科を選びました。いまでもきのこの専門教育を受けたかったなと思うこともありますが、きのこを趣味で続けられているので当時の選択は良かったと思っています。

もし、菌学部きのこ学科があったらそちらに進んでいたかもしれませんが・・・

趣味はもちろんきのこですが、それ以外にオーケストラが好きで（一時期打楽器をやっていました）、年に何回かコンサートに通っています。

そんな私が初めてきのこに興味をもったのは、今から 17 年ほど前になります。

当時小学校 2 年生だった私は、授業で図書室に来ていました。ずらっと並ぶ「世界大百科事典」をみて、「こんなにたくさんどんなことが書かれているのだろう」と疑問に思い、適当に一冊選んで真ん中あたりのページを開いてみたのです。

不思議なことにそのとき私がたまたま選んだ本が見出し語「キ〜キョ」の一冊で、たまたま開いたページが、なんと「きのこ」だったのです。

その「世界大百科事典」の「きのこ」のペ



最近「庭園」が気になっています

ージは見開き 1 ページで、左半分に十数種のきのこのスケッチと、右半分にそれぞれのきのこの解説が書かれているものでした。それぞれに、「食」・「毒」・「猛毒」「食毒不明」というなんとも怪しい分類や説明と、いままで知っていた食卓に出てくるきのこのことは違い、ずいぶん多種多様な姿をみてきのこの世界にのめり込んでいったのです。

当時は休み時間になると、図書室に行っては一つ一つスケッチや和名、解説文を書き写していた記憶があります。その時のお気に入りには名前の響きが気持ちいい「トビチャチチタケ」と美しい見た目と「猛毒」の解説がなんとも恐ろしい「シロタマゴテングタケ」でした。

当時は新潟市に住んでいたもので、両親に新潟県内の観察会に連れて行ってもらったり、残念ながら今では食べられなくなりましたが、「スギヒラタケ」（新潟では、「スギモタセ」と呼んでいました）を毎年採りに行ったりと、「きのこ充」な生活を送っていました。

このように見た目からきのこに入っただけで、いまでもやはり見た目に楽しいきのこが気に入っています。

実は、千葉に引っ越してからにはきのこを見に行く機会が減っていました。そんなある日、そういえば千葉にきのこの団体はないだろうかと思いインターネットで検索し、たまたま千葉菌を知りました。当時住んでいた場所からも近く、久しぶりにきのこを見たいと思いつぐに入会いたしました。

昨年は、いわきに引っ越したもののほとんどきのこを探しに行けませんでした。しかし昨年 10 月、たまたま休みができたため川内村に行くことができました。台風の翌日、荒れた山道を車で抜けること 1-2 時間、ようやく辿り着いた目的地で歩きまわることさらに数十分、倒木から出るなんとも不思議な盃達と出会うことができました。



福島に来たからにはコレを見なければ！（センボンキツネノサカツキ *Microstoma aggregatum*）来年は幼菌にも会いたいです

まだまだきのこは勉強中で、毎回観察会に行くたびに新しい発見を楽しんだり、皆さんの豊富な知識に驚いたりしています。

現在はいわき市には住んでいますが、今後とも千葉菌の観察会には参加していきます。また、今年は、千葉菌に加えていわきでもきのこ探しにも力を入れたいと思っています。

今後ともよろしくお願いいたします。

—*—*—



実は昨年、いわきで見つけられなかったで、今年はいつも！